

広島大学学術情報リポジトリ

Hiroshima University Institutional Repository

Title	初任者研修における示範授業が初任者に与える気づきに関する事例的研究
Author(s)	又野, 陽子
Citation	YASEELE : Yamaguchi studies in English and English language education , 19 : 19 - 31
Issue Date	2015-09-25
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00052832
Right	This is not the published version. Please cite only the published version. この論文は出版社版ではありません。引用の際には出版社版をご確認、ご利用ください。
Relation	



初任者研修における示範授業が初任者に与える気づき に関する事例的研究

又野 陽子*

1. はじめに

筆者(注1)は、平成21年度に初任者研修の教科指導員として1年間初任者(以下A教諭)(注2)に教科指導を行う機会を得た。A教諭が提案した授業の継続的な観察と事前・事後指導、また筆者による示範授業を計画的に実施する中で、初任者が教科の専門性を身につけるプロセスを理解するための資料を記録として蓄積することができた。酒井・神保・久村(2011: 192)は、英語教師の専門性の養成と研修は、人間性・教職の適性の育成と英語力・英語教授力の育成という2つの軸をバランスよく向上させていく体制を構築していくことが必要であることを指摘している。本研究においては、英語を教えることという教科の指導に関する軸に焦点をあてて、英語教師の専門性が初任者研修を通してどのように修得されていくのかを検討することとする。1年間の教科研修は、初任者の提案授業とその事前・事後指導、教科指導員が授業を示範し指導する示範授業の2つに大別することができるが、本稿では示範授業を通じた初任者の学びや気づきの推移を検証することとする。筆者が継続的に観察した初任者自身の授業の変容や授業改善の道筋と示範授業が与えた気づきとの関係性に関しては稿を改めたい。

2. 研究の目的と意義

本研究は、示範授業を通して初任者がどのような学びを得たのかを分析し、示範授業が初任者に与えた気づきを検証することを目的とする。「示範授業など優れた教師の実践を直接に観察すること・・・(中略)・・・により初任者は自分に相応しい教授スタイルや技法を習得することができる」(丸山, 2006: 108)とされており、事前・事後指導とともに示範授業の観察による気づきも初任者の授業の変容や改善に反映されることが考えられる。他の教員の授業を参観して学ぶことができる内容としては、一般的に授業者の心構えや指導技術であることは予想が可能であるが、実際にどのような授業から初任者は何をどのような推移で学んでいくのかについて具体的なデータとして明らかにすることが本研究の意義として挙げられる。

* 山口市立平川中学校

4	5/25	<ul style="list-style-type: none"> ・ Is this[that]...? の文と応答の形・意味・用法を理解し、表現できるとよくなるようにする。 ・ 単語絵カードにより建物などについて尋ねたり応答したりする対話の内容を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ パターンプラクティスの手順 ・ パターンプラクティスの置換、転換 ・ オーラル・インタラクションのねらい ・ 範読から音読までの指導手順
5	6/8	<ul style="list-style-type: none"> ・ Do you...? の文と応答の形・意味・用法を理解し、表現できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ パターンプラクティスの置換、転換 ・ オーラル・インタラクションの留意点 ・ 意図、語彙の意味提示の方法と工夫 ・ 範読から音読までの指導手順
6	6/15	<ul style="list-style-type: none"> ・ I do not... の文の形・意味・用法を理解し、表現できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ パターンプラクティスの置換、転換 ・ 範読から音読までの指導手順
7	6/29	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の興味・関心を引くような写真、実物、場面を設定し、楽しく口頭練習ができるよう支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教室内での活動のゲーム化（教室で行っている活動にゲーム性を取り入れること） ・ ゲームの意義、条件、留意点
8	7/6	<ul style="list-style-type: none"> ・ ALT とのチーム・ティーチングにより前時の復習（文法事項の確認）を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ALT とのチーム・ティーチングの進め方（前時の復習の例）
9	7/13	<ul style="list-style-type: none"> ・ “be 動詞＋形容詞”、“be 動詞＋not＋形容詞”の文の形・意味・用法を理解し、表現できるようにする。 ・ 絵カードにより教科についての語彙を導入し、好きな教科について尋ねたり応答したりすることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ パターンプラクティスの置換、転換 ・ 「聞くこと」の指導手順 ・ 真偽テスト（true-false test）の使用法について ・ 範読から音読までの指導手順
10	9/8	<ul style="list-style-type: none"> ・ 絵カードにより朝食に関する語彙を導入し、朝食に何を食べるか尋ねたり応答したりすることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定型会話（conventional conversation）の「約束」（conventions）の種類 ・ 範読から音読までの指導手順
11	9/14	<ul style="list-style-type: none"> ・ 役割と場面を与え、機能連鎖（McCarthy, 1991; Fujiwara, 2007; 又野, 2010 等を参照）の演習をさせることにより、隣接ペアや交換の構造を練習させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 隣接ペア（adjacency pairs）や交換（exchange）の練習 ・ ドラマ的手法の使用（ロール・プレイ）
12	9/28	<ul style="list-style-type: none"> ・ How many...? の文と応答の形・意味・用法を理解し、表現できるようにする。 ・ 音楽や CD、持ち物など生徒がもつ経験・興味・関心を引き出し、ストーリーに関連づける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ パターンプラクティスの置換、拡張、転換 ・ オーラル・インタラクションの特徴と留意点
13	10/5	<ul style="list-style-type: none"> ・ カレンダーを用いることにより曜日の言い方を導入し、練習する。 ・ ALT と JTE の対話を通して曜日を尋ねる言い方と答え方、時間割の言い方を理解し、表現できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ALT との効果的なチーム・ティーチングのための留意点 ・ ALT とのチーム・ティーチングの進め方（新教材導入の例）
14	10/19	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般動詞の三人称単数現在形（肯定文）の形・意味・用法を理解し、表現できるようにする（復習）。 ・ プリントで書く活動を行い、「oral-aural で練習した語や文を定着させる」（佐野・米山・松沢, 1993:126）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「書くこと」の指導の際の留意点
15	10/26	<ul style="list-style-type: none"> ・ 三人称単数現在形（否定文）の形・意味・用法を理解し、表現できるようにする。 ・ 導入の段階で、階層的に示す。 ・ 方法・導入の段階で、階層的に示す。 ・ 方法・導入の段階で、階層的に示す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ パターンプラクティスの置換、転換 ・ オーラル・インタラクションの特徴 ・ オーラル・インタラクションから音読までの指導手順
16	12/7	<ul style="list-style-type: none"> ・ もりがたき位置をさまざまに移動させ、それに応じて答えたり、それに答える。 ・ 物（例：キュー）の位置をさまざまに移動させ、それに応じて答えたり、それに答える。 ・ キュー（cue）とし置換の練習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書の聞き取りを行う際の留意点 ・ パターンプラクティスの置換、キュー（cue）の出し方 ・ 定型会話（conventional conversation）の効用、留意点、位置づけ ・ 範読から音読までの指導手順

		<p>が全練習された単語の発音は列全体の後クラス 一体習練室文読習名 練習スミラ多手張 ムでが習英はの量順 使用された単語の発音は列全体の後クラス カーズで言いやすい(手拍子)。CDを使つ る。ミムを巻のさ 入る。さきで 込んでインタラクショ ン。</p>	<p>【練習】 【学習過程】 【インタラクショ ン】 【多量 練習】</p>
7	6/29	<p>の練習が定着している。 キーワードをどんどん出さ せる。(Nice try!/Close!) カードを黒板に貼って意識づけ。 (絵)班対抗で何だろっ？ 出た答えは一つと必ず I don't know.と Really?を導入し て</p>	<p>【キーワード】 【練習】 【工夫】 【必要事項の事 項】</p>
8	7/6	<p>発音の練習をしながら、 大な居語のモヤリとりの中 がに芝英のJTEのクシのや 声お室語の使ワう終賞く の人を教英としてン了て 発表場面ALT使用動ヨ終 徒自生教ALT語ワ板タト 生口自生教ALT語ワ板タト 徒自生教ALT語ワ板タト 生口自生教ALT語ワ板タト</p>	<p>【大きさ】 【英語】 【提示の方法】 【事前のデモン ス】</p>
9	7/13	<p>chain practice のメモ。良いものは範とする(2文で 答える語を返か英覚ニ 徒自生教ALT語ワ板タト 生口自生教ALT語ワ板タト 徒自生教ALT語ワ板タト 生口自生教ALT語ワ板タト</p>	<p>【とらえ方(よさ しさ)】 【カード】 【練習】</p>
10	9/8	<p>英語の導入。(トピック)について述べる。 CDで返方の仕方を先生が How about you?を授業の中の会話で導入しておく。 音読の指導手順に写し大 切なところをおさえる。</p>	<p>【提示の方法】 【必要事項の事 項】</p>
11	9/14	<p>授業の導入。(トピック)について述べる。 CDで返方の仕方を先生が How about you?を授業の中の会話で導入しておく。 音読の指導手順に写し大 切なところをおさえる。</p>	<p>【練習】 【必要事項の事 項】</p>

フラッシュカードを「テンポよく」「ある程度の速さ」でフラッシュさせ「多量の練習」をし、練習に臨む生徒の発音や態度の「よさの見取り」を行う等、指導技術と心構え、教室運営は相互に関連し合っているものである。図1を基本としつつ、表2に見られるようにその授業の回の内容によって、文法、リスニング、ロール・プレイ、宿題の確認、ALTとJTEのチーム・ティーチングや単語テスト実施時の気づき等が蓄積されていった。

4. 2. 2 インタビューから見える示範授業の学びの推移と評価

インタビューは、平成22年8月27日に実施したが、その方法は、A教諭が表1をもとに示範授業で提示されたことを振り返り、どのような気づきや思いを持ったかを第1回から順番に授業の回ごとに述べていき、その回答を筆者がノートに記録するという方法であった。質問のワーディングや順序は事前に決定されており、口頭での調査形式であった。表2にまとめたような報告された気づきや学び(示範授業の流れ、教師や生徒が使用した教室英語、教師の動き、板書内容、使用教具等のメモ)だけでなくその時々A教諭の思いも明らかにし、回を追うごとにどのように学びや思いが蓄積されていったのかを辿りたいと考えたためである。その結果(原文)をまとめたものが表3である。

表3 インタビューから見える示範授業から得た初任者の気づきや思いの推移

回	授業日	回答された気づきや思い
1	4/13	丁寧 <u>に</u> ゆっくり、わかりやすく簡潔に授業を進めることを学んだ。生徒一人ひとりが <u>確実に</u> 参加できる。自分は中学2年生を対象に自己紹介したが、 <u>声を大きくして</u> 、教室英語をもっと使わなければ、と <u>気持ちを新たに</u> した。
2	4/20	フォニックスは自分が <u>一番勉強したいところだ</u> 。自分は「音をつけて」という点をやっていたいなかった。
3	5/11	Question.のキューで疑問文を作らせたり、 <u>パタンプラクティスの技法</u> を目のあたりにしてわかった。教師の発話は少なく <u>子どもの発話を多く</u> することを学んだ。 <u>これから取り入れていきたい</u> 。
4	5/25	パタンプラクティスに <u>自分も子どもみたいな気持ち</u> で参加していた。新出事項がそれほど多くない場合は、 <u>新出文法と語彙を同時にコンテキストの中で導入</u> できるということを学んだ。
5	6/8	<u>わかりやすい絵</u> でシンプルに導入する、しかし日本語は <u>使っていない</u> 、という点で <u>勉強になった</u> 。
6	6/15	この授業のような <u>練習や音読の手順や授業の流れ</u> であったら子どもにわかりやすいと思った。自分の授業では <u>発話量が少ない</u> 面があったが、 <u>意識するようになった</u> 。
7	6/29	ゲームは自分もときどきやるが、 <u>ゲームの前の説明の仕方</u> の工夫や、このようなときはどのように言うかという <u>生徒の教室英語</u> を指導する必要性をこの授業から学んだ。
8	7/6	ALTとJTEの会話の一つひとつが生徒のモデルになっており、突如起こった生徒からの質問に対する答えも生徒には全部勉強になっている。そして、やはり <u>丁寧に</u> 指導することの大切さを学んだ。今回の授業ではALTとのチーム・ティーチングにより前時

		の復習（文法事項の確認）が行われたが、自分は復習としてのコミュニケーション活動でALTを活用することが多い。 <u>ALTの多様な活用方法を学んだ。</u>
9	7/13	<u>導入の際の絵がわかりやすかった。ストーリーと関連づけながら語彙を導入する方法を学んだ。</u>
10	9/8	<u>生徒自身の生活と密着している身近なことを取り上げることの大切さを学んだ。ストーリーと関連づけながら語彙を導入する方法を学んだ。</u>
11	9/14	劇化が <u>楽しそう</u> だった。 <u>自然な会話の流れやパターンを身につけさせていくことができる</u> と思った。
12	9/28	自分が本当に持っている物に関して <u>How many...?</u> の文や応答の文を使っていた。きちんと <u>パターンで型を導入し、最初にたくさん練習</u> していたことが <u>印象に残った</u> 。
13	10/5	板書や具体物（カレンダー）を用いることで曜日が視覚的にわかる <u>と思った</u> 。最初の <u>イントロダクションが、シンプル</u> でありながら今日の授業が生徒にはよくわかる内容であったと思う。
14	10/19	プリントで書く作業を行った際、 <u>生徒一人ずつきちんと丁寧に</u> 見ておられたのが <u>すごい</u> と思った。そこまでやったら子どももわかる。子どもも丁寧に文字を書いている。
15	10/26	授業の <u>展開が自然な流れだ</u> と思った。 <u>ストーリーの内容を理解させるのに国旗を使ったり表にまとめたりして入りやすいしわかりやすい</u> 。
16	12/7	<u>子どもの発話が多くなる</u> ようにされていた。 <u>テンポよく、生徒も口から自然に英語が出て</u> いる。 <u>パタンブラクティスのキューの出し方</u> には口頭によるものと実物、絵などを用いる方法があることを知った。
17	1/18	<u>絵を使ったり、生徒の集中力をたやさない工夫</u> がされていた。
18	2/1	漢字を用いたコミュニケーション活動は <u>見えて楽しかった</u> 。 <u>action</u> （ここではクイズ）を行う中で <u>コミュニケーションに必要な表現も用いる</u> ように促されていたが、教科書の <u>Let's Chat</u> のセクションにもつながるものだったと思った。
19	2/15	子どもに <u>答えを出させる</u> ことが大切なのだと知った。そのための <u>雰囲気づくり</u> も大切だと思った。英語の手紙の書き方の <u>正しい基本を教える</u> ことの大切さを知った。それが文化の学習にもつながると思う。

_____ : 授業の心構えに関する学び

..... : 指導技術に関する学び

□ : A 教諭の思い

また、文章表現による振り返り（表3）以外に、示範授業で提示した事項（表1）がA教諭にとってどの程度役に立ったのか、あるいは役に立たなかったのかを4件法で評価してもらい（役に立ったものに4、まあまあ役に立ったものに3、あまり役に立たなかったものに2、全く役に立たなかったものに1）、その理由も尋ねた。その結果、評価はすべての項目で4（役に立った）であった。その理由としては、「英語を教える以前の、丁寧にスモールステップで教えるという教科をこえて大切にしなければならないことを学ぶことができたから。そして、先生がすごく研究されていて、自分も英語の勉強を本当にしっかりすることの大切さも学べた。具体的には、教材や指導法に関する知識や背景、長い目でその教材を見ていくことの大切さなどである。また、一つひとつの手立てや行動に意味

があるということがよくわかったし、日頃の授業中での技術面、やり方を一番学んで、役に立った」という記述を得た。

5. 考察

他の教員の授業を参観して学ぶことができる内容は、一般的に授業者の心構えや指導技術等が考えられるが、今回の示範授業の参観から具体的に何を学んだか、今後さらに必要な支援は何か等を A 教諭のレポートや実際のコメントから把握することを試みたい。

まず、示範授業を通して提示することが計画された内容（表 1 の提示内容）と A 教諭の学びとの一致やずれについて考えてみたい。11 回目の示範授業において、役割と場面が与えられドラマ的手法が用いられていることは観察されていた。しかし、隣接ペアや交換といった会話の構造を視野に入れてロール・プレイが行われていたことへの気づきは促されていなかったため、この点については事後指導の際に説明を加えた。その他の回では、「何度もリピート」「たくさん練習する」等、A 教諭自身の表現で記述されているものの、「十分な口慣らし」等の教科指導員の授業の意図は各回で伝わっており、詳細なメモがとられていた。

示範授業の初回から、教室英語や板書内容等のメモ、声の調子や授業のテンポ、教具の使用方法、指示の出し方、フォニックスやパンプラクティス、音読、オーラル・イントロダクション（インタラクション）等の記録が積み上げられていった。丁寧に正しく文字を書くことの気づきや生徒の理解度の確認等、その回ごとに学びを積み上げていったことがわかる。

表 3 及び 4 件法による評価とその理由の記述から、手順をふんで丁寧に指導すること、生徒の集中力を持続させテンポよく授業を進めること、生徒の発話量を多くするための手立てをとること、自然な会話の流れを大切にしたい授業を組み立てること等、教師が英語の授業で大切にしたい心構えについての気づきが促されていったことがうかがえる。

また、フォニックス、パンプラクティスの技法や内容中心のオーラル・イントロダクションなど英語の授業特有の指導技術も示範授業を通して学んでいったことがうかがえる。しかし、「知った」「印象に残った」「これから取り入れていきたい」「自分も子どもみたいな気持ちで参加していた」（表 3 中のコメント）というところでとどまっており、示範授業で得た気づきを初任者自身の授業に反映させて適切に使用できるためのトレーニングや支援が必要である。

4 件法による評価とその理由の記述からは、示範授業を通して英語科の指導技術だけでなく、教科をこえて大切にしたいことが学べたことがうかがえる。それと同時に、良い授業をつくるためには理論的な礎が必要であり、研究を常に継続しなければならないという指導者の授業に対する姿勢も伝わったように思われる。

6. おわりに（まとめと今後の課題）

1 年間にわたり、自らの授業をモデルとして示し指導する示範授業を実施し、

初任者の学びを示範授業の回ごとに辿った。示範授業から得られた初任者の気づき（学び）の分析結果に基づいて、初任者は他の教師の実践を直接に観察することにより何をどのような推移で学んでいくのかをデータとして明らかにした。初回から授業者（教科指導員）の指導上のポイントを十分理解して、英語の指導技術、心構え、教室運営についての学びを深めていったことがうかがえたが、どのような意図や理論的な意味があってその活動を行っているのかといった理論的根拠についてはあらためて説明を加えていく必要があった。しかし、そうした事後指導を通して、指導技術のみでなく、理論的礎の必要性や授業に対する姿勢も学び取っていったことが A 教諭の記述から明らかになった。

本稿では、1年間の教科研修のうち、示範授業に焦点をあてて初任者の学びや気づきの推移を分析したが、教科研修では初任者の提案授業とその事前・事後指導も実施してきた。筆者が継続的に観察した初任者自身の授業の変容や授業改善の道筋、初任者自身の授業と示範授業が与えた気づきとの関係性について今後分析を継続することにより、英語教師の専門性が初任者研修を通して修得されていくプロセスを総合的に明らかにしていきたい。また、本稿は一人の教科指導員が提示した授業からの学びに関して一人の初任者の事例を取り上げたものにすぎないため、今後同様の機会があれば今回とは異なる初任者の事例を詳細に分析してデータを蓄積し、今回のケースと比較することによって示範授業が初任者に与える気づきに関する具体的普遍性を探っていきたい。

注

- 1 博士（教育学）。教科指導員として今回の初任者研修に携わっていた時、教職 21 年目。
- 2 文学部英米文学科卒業。採用前に、中学校で 5 年 5 か月（特別支援学級の英語の授業を教えた 1 年間を含む）、小学校で 2 年 4 か月英語及び外国語活動の授業に携わっていたが、今回のような形で指導助言を受けながら研修を行った経験はない。

参考文献

- Fujiwara, Y. (2007). *A study on the acquisition of English function-chains: A focus on Japanese EFL learners*. Hiroshima: Keisuisha.
- McCarthy, M. (1991). *Discourse analysis for language teachers*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Merriam, S. B. (2004). 『質的調査法入門—教育における調査法とケース・スタディー』（堀薫夫・久保真人・成島美弥訳）。京都：ミネルヴァ書房。（原典 1998 年発行）。
- 金田道和. (2000). 「C. C. Fries の理論再訪(1)」『中国地区英語教育学会研究紀要』No.30, 85-93.
- 酒井志延・神保尚武・久村研. (2011). 「英語教師の成長—求められる専門性—」石田雅近・神保尚武・久村研・酒井志延編. 『英語教育学大系第 7 巻 英語教師の成長—求められる専門性』（pp. 189-227）. 東京：大修館書店.
- 佐野正之・米山朝二・松沢伸二. (1993). 『基礎能力をつける英語指導法—言語

活動を中心に』東京：大修館書店.

又野陽子. (2010). 「言語の使用場面と言語の働きを重視した英語の授業に必要な視点」『英語教育学研究』広島大学英語教育学会, 創刊号, 37-44.

丸山義王. (2006). 「初任者への指導助言の効果的な運用」八尾坂修（編）『教職研修総合特集（読本シリーズ No. 169）指導教員のための初任者研修の進め方』（pp.107-111）. 東京：教育開発研究所.

【付記】

本研究にあたり、初任者の先生にはインタビューに応じていただくとともに本稿にまとめることに了解をいただきました。私自身も教師教育についての考察を深める機会となりました。記して謝意を表します。